



農

育てます豊かな食とみどりの東京 総 研 だ よ り 第2号

平成19年9月発行

財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

新素材による環境にやさしい野菜生産技術の開発に取り組んでいます。

近年、野菜を生産する上で農薬をできるだけ使用しないことへの要望は益々、強まっています。当センターでは、こうした声に応えるため、埼玉、千葉、神奈川の各県、(独)野菜茶業研究所、同中央農業総合研究センターなどと共同で「新資材等を活用した都市軟弱野菜の省農薬・高品質生産技術の開発」に取り組んでいます(農水省・研究高度化事業 平成18~20年度)。

当センターは、研究のまとめ役を担い、近紫外線除去フィルムの使用で病害虫を軽減する技術、フィルムの物性が経時的に変化する様子の解明、残留農薬の簡易な調査方法の開発、農薬が他の農作物にかかるとのを防ぐ技術の開発などを担当しています。対象としている野菜は、コマツナとハウレンソウです。

他の共同研究機関では、蒸し込み、光反射シート、防虫ネットやスーパーソフトネットによる害虫防除、熱水・太陽熱・土壌還元による土壌消毒、送風式捕虫機の開発などに取り組んでいます。
(安全環境科、商品開発科)



近紫外線除去フィルム、防虫ネットを使った栽培試験(品目:コマツナ、ハウレンソウ)



波長域が異なる6種類の近紫外線除去フィルムによるトンネル栽培試験(品目:コマツナ)

電気柵でハクビシン対策！

都内で、ハクビシンによる被害が果樹園等に出ています。当センターでもブドウ園でハクビシンが捕獲されたので、対策として電気柵を設置しています。電気柵の設置はとても簡単で、費用も4万円程度(約13a)です。しかも、一度設置すれば管理も容易です。

また簡便な対策としては、犬の毛(握りこぶし大の塊をミカンのネットに入れる)を吊るす方法もありますので、技術的なご相談は当センターへどうぞ。見学も可能です。電気柵の設置補助金等に関する内容は、お住まいの市町村にご相談ください。(生産技術科)



感電に注意！

エダマメの大敵、「ダイズシストセンチュウ」と闘う！！

東京都のエダマメは直売品目として人気が高いため、消費地に近い有利性を活かして栽培されています。しかし近年、葉の黄化、生育不良などの生育障害が発生し、各地で大きな問題となっています。

原因究明のため、これらの生育障害が発生している都内63カ所のほ場を調べたところ、21カ所でマメ科植物に被害を与える「ダイズシストセンチュウ」が確認されました。このセンチュウの防除は非常に難しく、単独の防除方法では被害を抑えることはできません。

そこで当センターでは中央農業改良普及センターや農業振興事務所技術支援係・生産農家と協力して、被害を軽減する作型やセンチュウ抵抗性品種導入の検討、農薬とその他の方法との組み合わせによる防除試験などに取り組んでいます。(安全環境科、江戸川分場)



中央:葉が黄化、生育悪化
周辺:健全に生育
(都内エダマメ生産ほ場)



ダイズシストセンチュウ
の幼虫(体長約0.6mm)



左:被害株
右:健全株

夏でも素直に伸びる“トルコギキョウ”をお届けします。

“トルコギキョウ”は花色がバラエティに富み、花もちの良いことなどから、近年、人気の高まっている切花の一つです。東京都伊豆大島では市場出荷されている重要な品目であり、また都内の農家では直売用切花として栽培が増えてきています。

一方、“トルコギキョウ”は夏の暑い時期に播種するとロゼット化(生育が停止する現象)してしまい、収穫ができなくなることがあります。そこで突然変異育種法により、夏でもロゼット化しにくい中間母本品種「伊豆大島E3号」を育成しました。現在、この品種を片親にして、夏でも作りやすく、観賞性の高いF₁品種の育成を、東京都島しょ農林水産総合センター等と共同で進めています。(商品開発科)



伊豆大島E3号

「夏休み親子畜産教室」が開催されました。

毎年恒例となっている「夏休み親子畜産教室」が8月10日に青梅庁舎で開催されました。定員を上回る応募があり、午前と午後の2回に分けて実施したところ、45組の親子120名の参加がありました。主な内容は、場内見学とバター作り教室です。場内見学では、乳搾り体験とひよことのふれあいを行いました。初めて乳搾りを体験する子供も多く、大人も楽しんでいました。

バター作りもほとんどの人が初めてでしたが、上手にできあがったバターをパンに付けて試食しました。帰りにはバターとスモークチーズ、それにもぎたてトウモロコシのお土産もあり、大満足のひとときでした。当日は、暑い一日でしたが、立川庁舎管理課、農業振興課の協力もあり、無事終了しました。

なお、この様子は8月15日付けの日本農業新聞に掲載されました。(青梅庁舎)



ひよことのふれあい



頑張って！バター作り



もう少しで完成！

直売用切り花に「アキレア・ザ・パール」の加温電照栽培を！

「アキレア・ザ・パール」(*Achillea ptarmica* “The Pearl”)は、ヨーロッパ原産の耐寒性宿根草です。春に株元から1m程の茎を伸ばして細い柳葉を形成し、7~8月には花径1cmの清楚な八重の花を茎の先端に20輪程度咲かせます。一見、宿根カスミソウと見間違えるほど似ていて、和洋いずれの切花にも使える品種です。

一方、早春の直売所では切花が少なく、新しい品目が求められています。そこで当センターでは、「アキレア・ザ・パール」の早春開花を試みました。

一般的に、春から夏にかけて開花する宿根草は、春の暖かさと昼の明るい時間の伸びで花芽を作り、開花が早まります。この性質を利用して鉢植えした「アキレア・ザ・パール」を加温室内で2月上旬から22時~翌2時の間、電照しました。その結果、3月下旬から4月にかけて、側枝が伸び過ぎず、水揚げ・日持ち良好な大変品質のよい花が一斉に収穫できました。直売所の品目が少ない早春用切花としてお勧めします。(生産技術科)



左：電照処理
右：無処理



見事に咲いた
「アキレア・ザ・パール」



What is this?

何かの花のようですね。ヒント①**ヒルガオの仲間**です。ヒント②よく見ると蔓のようなものが出ていますね。ヒント③秋になると、土の中から掘り出します。俗に**九里四里(栗より)**美味い**十三里**とか。もうわかりですね。答えは**農総研**だよりの中にあります。

都市緑化植物「ギボウシ」の有望4品種を明らかにしました。

ギボウシ (*Hosta spp.* リュウゼツラン科ギボウシ属) は、耐寒性の多年草で古くから観賞されてきました。近年、新しい花色、斑入り葉の品種がたくさん発表されています。そこで、新しいギボウシ品種について定植後の生育・観賞性等から見て都内の栽培条件(日照不足など)に適する有望品種を明らかにしました。

供試したのは「ゾウンズ」をはじめ 19 品種です。2005 年(平成 17 年)4 月 5 日に、当センター露地ほ場の親株から、20×20×20cm のブロック(芽数 15 以上)で宿根部を株分けしてほ場に定植しました。

試験区は、遮光率 58% の黒寒冷紗を用い植物体の上部をトンネル状に被覆(裾部分南北 20cm 解放)した遮光区、および無遮光区の 2 区を設けました。遮光区、無遮光区とも定植後 7~10 日間隔で 2 カ年間、目視観察による観賞性評価を、また草丈等の生育調査を翌年の 7 月に行いました。その結果、「シーサンダー」、「ファイヤーアンドアイス」、「ホワイトクリスマス」、「ジャネット」の 4 品種が遮光条件に関係なく生育良好で、都市緑化植物として有望であることが判明しました。

(都市環境科)



「シーサンダー」



「ファイヤーアンドアイス」



「ホワイトクリスマス」



「ジャネット」

—江戸時代からの伝統の味— 江戸甘味噌をどうぞ！！

江戸時代から受け継がれている江戸甘味噌は、大豆、米麴、食塩を原料とした赤褐色の米味噌で、シジミ汁・豚汁、田楽味噌や鯖の味噌煮などに用いられています。

しっとりとした甘い独特の風味は、2~3 日蒸した大豆にたっぷりの米麴と代表的な辛口味噌の半分程度の食塩(約 6%)を加えて、熟成を比較的高温で約 10 日間と短くすることで醸しだされます。現在、江戸甘味噌は年間 150 トンほど製造されており、特許庁認定の地域団体商標として登録され、東京都の地域特産品としての認証も受けています。

食品技術センターでは、東京都味噌工業協同組合とともに、江戸甘味噌中の大豆タンパク質の分解度や微生物学的特長について研究を実施し、その成果を全国味噌技術会大会で発表するなど、江戸甘味噌の普及に努めています。(食品技術センター)



江戸甘味噌(袋詰め製品)



蒸煮大豆、米麴と食塩の混合工程

たくさん採れるといいね！みんなで植えたサツマイモ。

毎年、5月下旬になると農総研の畑にはかわいらしい子供さんの声がこだまします。わいわい、ガヤガヤ。いったいなんなのでしょう？実は、近くの保育園や幼稚園の園児のみなさんが楽しみにしているサツマイモの苗植えです。今年も、合計16の園の子供さんが苗を植えました。

適度な降雨と好天に恵まれて、苗はスクスクと育っています。そして、可憐な花まで咲きました。みなさん知っていましたか。サツマイモは、ヒルガオの仲間なんですよ。11月になると、いよいよイモ掘りです。草取りも一生懸命やったんですからね。たくさん採れるといいですね。（研究企画室）



苗植えは楽しかったね



元気に育っています



ほっかほっか焼き芋

来て！見て！体験！「東京農林水産フェア」を開催します。

1 開催日時：10月20日（土） 9時30分～16時（小雨決行）

2 会場と催し物

○立川会場：園芸相談コーナー、イモ掘り体験、野菜の収穫、植物バイテク実験、園芸教室、農産物等の販売、伝統技能の実演などを予定。

○青梅会場：家畜とのふれあい、乳搾り体験、農畜産物等の販売、牛の品評会（東京都酪農業協同組合主催）などを予定。

たくさんの方々のご来場をお待ち申し上げます。ぜひ来て！見て！体験！して下さい。乞う、ご期待！（研究企画室）



乳搾り体験



マイクロスコープ実験

特産化を目指した柿の新品種「東京紅」の研究が進行中です。

「東京紅」は、1968年（昭和43年）に興津2号（富有×晩御所）と花御所を交配して育成されました。果形はやや扁円形で果実が大きく、果皮色が橙朱色で、育成地（当センター）では、10月下旬から11月上中旬頃に成熟する完全甘柿です。2005年（平成17年）2月に種苗登録されました。

昨年度の研究から、果実の結果母枝及び結果枝の長さが果実の品質に及ぼす影響、果皮色から収穫適期を判別する技術などを明らかにしてきております。今秋には、これまでに苗木、穂木を配付してきたJA、生産組合の方々を対象にした試食会の開催を計画しています。（生産技術科）



「東京紅」
ちょうど食べ頃です



果皮色は橙朱色、扁円形で大きい果実が自慢

果樹の新品種作出に取り組んでいます。

当センターはナシ65品種、ブドウ17品種をはじめ、たくさんの優良品種・系統を保有しております。今年度もこれら品種・系統間の交配を行い、優良品種の作出を目指した育種開発に取り組んでいます。（生産技術科）



品種作出中の幼木（ナシ）



新品種候補の原木（ナシ）

（発行者）東京都農林総合研究センター 三輪 睿太郎

財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

〒190-0013 東京都立川市富士見町 3-8-1 TEL 042-528-5216 FAX 042-523-4285

<http://www.tokyo-aff.or.jp/center/index.html> 皆様からのご意見・ご質問・ご要望をお待ちしております。